

目的：近年、様々な抗菌商品が日常生活で多用されているが、その反面日常の基本的な衛生管理が疎かになっていることが懸念される。例えば、抗菌性能を過信して手拭き、汗拭き、膝かけ、汚れ落としなどを1枚のハンカチで共用していることも考えられる。そこで、ハンカチを材料として、男女別、年齢別にハンカチの微生物学的衛生評価と微生物汚染の要因を調査した。

方法：1) ハンカチの使用法や洗濯に関するアンケート調査を実施した。2) 10代～50代の男女計45名に2種のハンカチ(綿平織り、綿タオル地)を4週間使用していただき、使用後に用途や洗濯法などのアンケート調査と細菌検査を実施した。細菌検査は、各検体から型抜き器を使って直径30mmの円形を4箇所抜き取り、30mlのリン酸緩衝生理食塩水に懸濁して平板培地法により一般生菌数と大腸菌群を測定した。3) 風呂水で汚染したハンカチについて、13通りの洗濯・乾燥法を設定し、同様に生菌数を測定した。

結果：アンケート調査の結果、ハンカチの使い分けをしないと回答した人が79.5%、他の衣類と一緒に洗濯すると回答した86.3%であった。ハンカチの使用試験では、平織りよりもタオル地、女性よりも男性、年齢別では10～20代の生菌数が多かった。この結果は、ハンカチの素材や使い方が細菌汚染度と密接に関係があることを示唆するものだった。

洗濯や乾燥による除菌効果は、室内干しよりも天日干しの方が高く、アイロン掛けを行うことによりその効果は更に高まることがわかった。また、他の衣類と一緒に洗濯するとハンカチへの移染の可能性が高くなり、この場合には酸素系漂白剤を添加しても期待する除菌効果が得られない傾向を示した。